

施策評価シート (評価対象年度：平成30年度)

1. 基本的事項

① 施策名〔施策小〕	3 ため池の保全と活用	② 施策番号	3435
③ まちづくりの方向〔政策(章)〕	5 快適で活気にあふれ、環境にやさしいまち		
④ 基本施策〔施策大(節)〕	1 豊かな自然環境を維持・向上し、うるおいあふれるまちをめざします		
⑤ 基本的方向〔施策中〕	1 河川・ため池の保全と活用		
⑥ 担当部名	⑦ 担当課名		
市民生活環境部	産業観光課		

2. 施策の現状把握

[1] 施策の対象・意図

① 施策の対象(誰、何に対して施策を実施するのか)	ため池、農業者、住民
② 意図(対象をどのような状態にしたいのか。何を狙っているのか)	ため池の耐震性の向上、経年劣化したため池の計画的な改修を進め、農地への水源確保、農業生産性の向上を図り、住民にとって快適で安全な環境づくりを行う。
③ 環境(この施策を取り巻く状況はどのような状態なのか、また、国や府の動きはどのような状態で、今後どのように変化していくと考えられるか)	府では、災害から府民を守るため、これまで老朽ため池の改修等の防災対策を中心に施策を進めてきたが、近年、想定を超える自然災害が頻発に発生し、このような大規模な自然災害から被害を軽減させる「減災」を図ることが重要となってきている。このため、今後の施策としては、ハード対策とソフト対策を組み合わせた「ため池の防災・減災対策」を進めていく動きとなっている。

[2] 施策指標及び推移

施策指標(成果指標)	単位	指標とした理由・考え方
① 整備・耐震診断が必要なため池のうち、改修・診断したため池の割合 計算式: 改修完了・耐震診断(ハザードマップ作成)したため池÷整備・診断が必要なため池×100	%	本指標により、農地への水源確保、周辺住民への安全性の確保の進展がわかり、ため池の保全と活用の進捗が読み取れるため。
② ため池ハザードマップを作成したため池 計算式:	池数	ハザードマップの作成・配布による万が一の災害時等の安全な避難行動の啓発により、周辺住民への安全性の確保に役立つと考えられ、ため池の保全と活用の進捗が読み取れるため。
③ 計算式:		

	指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	備考
①	整備・耐震診断が必要なため池のうち、改修・診断したため池の割合	%	目標値			100	—	
			実績値	50	75	90	—	
			達成率					
②	ため池ハザードマップを作成したため池	池数	目標値			3	5	
			実績値	5	5	3	—	
			達成率					
③			目標値					
			実績値					
			達成率					

[3] 施策を構成する事務事業

	事務事業名	成果指標				総事業費(千円)			事務事業評価結果		重点化	
		指標名	単位	H29実績	H30実績	R1見込	H29実績	H30実績	R1見込	総合評価		今後の方針
1	ため池改修事業	堤体整備延長	m	107	107	107	19,474	29,885	17,298	A	ア	◎
2												
3												
4												
5												
6												
7												
8												
計	1						19,474	29,885	17,298			

3. 施策の評価

評価の視点	説明・コメント等
①本施策の意図すること(目的)は、上位施策(施策中)の達成にどのように貢献しますか。 (施策所管課等としての考えをお示ください。)	ため池の耐震性の向上、経年劣化したため池の計画的な改修を進めることは、農地への水源確保、農業生産性の向上を図り、住民にとって快適で安全な環境づくりにつながり、上位施策である河川・ため池の保全と活用に貢献する。
②本施策で設定した指標から何が読み取れますか。 (2[2]の表の数値の推移から分析できることをお示ください。)	老朽化しているため池は、順次改修していることが、またため池ハザードマップについても順次作成し住民に配布していることで、災害時にため池による被害想定を住民に周知し、被害の軽減を図っており、ため池の保全と活用が一定進んでいることが読み取れる。
③本施策において市民、団体等との役割分担や市の関与は適切ですか。 (施策所管課等としての考え(理想と現実)をお示ください。)	役割分担を行い、地域関係者、水利団体、区、府などと連携を図りながら迅速に機能回復、改善改修を行っており適切である。
④施策を構成する事務事業は適正ですか。 (2[3]を踏まえ、施策目標に対し事務事業にずれはないか、数は適正かについて考えをお示ください。)	事務事業の内容から、適正に構成されている。
⑤施策を構成する事務事業の中で重点化及び縮小化についてどのように考えますか。 (2[3]において、◎、○、▲とした理由をお示ください。)	本事務事業は、従来より部分的に補修を行うことで維持管理をしてきたが、堤体の著しい浸食等により不安定な状態にあり、万が一の際には農地のほか家屋、人命にも被害が予想されるため、府営事業による改修事業を行うものであり、ため池を保全していくためには重点化すべきと考える。

4. 一次評価(所管課評価)

一次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
	B	ため池等の農業基盤は、年々老朽化するものであり、府や地元と調整しながら順次改修を行う必要がある。	

5. 改革、改善案

即時的対応 (すぐに取り組む改善案)	突発的な災害整備や緊急性を必要とする改修工事などは即時対応改善していく。
短期的対応 (1、2年のうちに取り組む改善案)	今後の必要性に応じ、府や地元と調整を行い、国の補助金や府営事業を活用する整備を計画する。
中長期的対応 (3~5年をめぐりに取り組む改善案)	改修が必要なため池を国の補助金や府営事業を活用しながら整備していく。

6. 二次評価(行革・財産活用室評価)

二次評価	評価(A~D)	課題等	A: 施策達成に向けた取組や展開などが大変評価できる B: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われている C: 施策達成に向けた取組や展開などが適切に行われているものの、改善の余地がある D: 施策達成に向けた取組や展開などが不十分であり、改善の余地が大いにある
	B	受益者にとって安定した水の確保のための施設として、住民にとって安全安心な施設として、ため池の保全施策は重要である。 大阪府や地元と調整・連携しつつ計画的に改修を進め、保全と活用に向けた取組を継続して進められたい。	